

平成28年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

教務部 平成28年度重点目標			
Task Force 1	項目1	目 標	① 本校の教育課程の狙いを達成するために、授業、考査、評価が円滑に行われるように、ハード、ソフト両面で授業環境のサポートや整備、時間割編成、考査の設定、実施を進める。
	項目2		② 学習成績評価に関して、生徒の学びの伸長を促す適切な評価がなされるように、評価システムの整備を進めていく。
	項目3		③ SGHアソシエイト校としての取り組みを教育課程の中で適切に位置づけ、実践し、今後のSGH構想の進展に資する。
	項目1	達成方法	① 教育課程を実践する上で、より効果的な時間割、授業の実施環境の整備、スムーズな定期考査の実施、成績評価の実施が出来るように、担当者が連携し、計画的に進めていく。
	項目2		② 成績、出欠などの各種データ・情報を効率的に管理、共有できる教育支援システムの整備を一層進める。また、成績会議などにおいて、到達度評価の検討を引き続き行い、教科会議にフィードバックしていく。
	項目3		③ SGHアソシエイト校の取り組みについて、教務的なサポート体制を構築していく。
Task Force 2	項目4	目 標	① 校務、教務関連情報処理の精度を高め、環境整備、成績処理などの教務事務を進めていくとともに、新しい教育支援システムの研究、活用をより一層進めていく。
	項目5		② SGHアソシエイト校として、グローバル進学、留学、海外からの編入学などに対応した英語による教務事務処理体制を整備し、より一層充実したものにする。
	項目4	達成方法	① 教務情報システムの精査と担当者による確認の繰り返しを丁寧に行い、適切なデータ管理、データ出力、各種帳票などで間違いなくできるように進めていく。特に成績処理ではミスがないようにそのプロセスを複数で確認するシステムをつくる。
	項目5		② SGHアソシエイト校としてのグローバルな教育環境により対応できるように、英文での各種の文書作成、発行ができるシステムを作り、また、それに習熟する人材を育成していく。
Task Force 3	項目6	目 標	① 式典、芸能教室、教育実習、教科書採択事務、単位追認定試験などの各種の教務上の実務において、これまでの成果を踏まえ、その内容の再検討を行い、より充実したものにしていく。
	項目7		② 外部の教育リソースとの連携をより一層、スムーズにして、その成果を全体で共有していく。
	項目6	達成方法	① これまでの各種の教務実務の成果を踏まえ、計画、準備、実施、発表、事後まとめ、全体共有の流れのサイクルをより一層、明確にするように取り組む。各種の校務関連文書、校務関連備品の整理を行い、教員の授業実践に対する環境を整える。
	項目7		② 教育実習や行事などにおいては、外部組織との十分な連携が欠かせない。目標、方法などを外部組織と十分に共有し、さらに検証を進めていく。
進路部 平成28年度重点目標			
項目1	目 標	生徒が自ら学ぶ授業の実践	
	達成方法	各教科が主導して、授業研究及び授業研修を実施	
		タブレットを積極的に使った授業展開 生徒が能動的に活動する授業展開の実践	
項目2	目 標	生徒の進路意識改革	
	達成方法	学年進路ガイダンスの充実	
		希望者対象の大学ガイダンスの実施	
項目3	目 標	教師の受験指導力アップ	
	達成方法	大学入試問題の解き合いと、検討会の実施(8月)	
		センター問題研究(センター翌日)	
項目4	目 標	中学の基礎基本事項の定着	
	達成方法	MMT(Monday Morning Test)の実施と成績不良者への徹底指導	
		5教科の基礎基本事項の共有	
項目5	目 標	2020入試改革への対応	
	達成方法	各種研究会や研修に参加して、最新情報を取得	

平成28年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

生徒部 平成28年度重点目標(生きる力育成に向けて)		
項目1	目標	グローバルな視野での文化祭及び人との調整力や社会性を培うワークショップ実施することにより、グローバル人材としての資質の向上を図る。
	達成方法	①global arts festivalの実践を通じて、グローバル社会について探究し、各自の考えを深める。 ②多様化する社会の中で、自立した人間としてよりよく生きられるような資質を育むために、道徳シラバスの中にグローバルな教材やアクティブラーニング型の内容を盛り込んでいく。
項目2	目標	『7つのルール』の指導の徹底を図る。通学マナーの徹底を図る。
	達成方法	①躰教育(「挨拶指導」「校内美化指導」「遅刻指導」等)を日常の場面でを行い、基本的生活習慣の基礎をしっかりと身につけさせていく。 ②通学マナーが徹底して守れるように、教員全体で登校指導を行う。また、生徒会を中心に生徒自身が活動出来るように準備する。
項目3	目標	道徳・LHRにおいて、ワークショップや体験活動を効果的に配置することによって、人間の生き方・在り方教育を推進する。
	達成方法	①道徳シラバスの内容の精選を図り、「考え、議論する道徳」へと質的に変革する部分を盛り込んでいく。 ②いじめの未然防止のための取り組み(スクール法教育の内容の充実等)を実践できるように整備する。
項目4	目標	学園祭や生徒会活動を活性化させることにより、生きる力が培えるような場面を多く作り出す。
	達成方法	①体育祭やglobal arts festival及び合唱コンクール等の学校行事を活性化させる。 ②生徒会の各委員会活動を機能的に活性化していく。
入試広報部 平成28年度重点目標		
項目1	目標	平成27年度にiSGHアソシエイト校認定を受け、2年目を迎える今年度は、「グローバルリーダーズコース」が中1・高1でスタートし、「グローバル入試1回増設」「新思考力入試新設」という実践を、受験生・保護者に広く正しく伝え、「大妻中野におけるその導入の意義」を社会的に認知される状況を作る
	達成方法	「高大接続の改革・大学入試改革」「グローバル社会で活躍する生徒の育成」等々に関する様々な研修に、入試広報部はもとより、多くの教員が参加して、校内での情報共有をはかるとともに、実践に基づいた広報活動が展開できるように取り組む。 共有された情報が、学校全体でより良い教育活動を創造するための源になるよう更に工夫を重ねる。 効率的な塾訪問・受験教育関係者との情報交換・共有を計画する。
項目2	目標	「近未来社会でグローバルに活躍する生徒の育成」を教育目標とする上で、目標に沿った意識を持つ受験生がより多く、受験・入学するように取り組む。
	達成方法	GLCの取り組みを積極的に情報発信するとともに、1回増設するグローバル入試により多くの受験生の受験を促す。 新思考力入試への関心を高めるとともに、本校が求める生徒が確実に選考できるように、入試問題作成やその事前説明等に注力する。
項目3	目標	海外帰国生の志願者増・入学者増(SGH構想調書目標に沿って)を達成するために、海外帰国生への広報活動を積極的に実施する。
	達成方法	海外での広報活動に参加し、現地情報を研究する。帰国生受験に関する情報収集を国内でも行い、広報活動につとめる。 シンガポールでの入試・編入試験に、より多くの受験生、さらには入学者が獲得できるよう取り組む。
項目4	目標	GLCクラスの新設やグローバル入試・新思考力入試などの説明のみに偏ることなく、アドバンスやコア入学志望者を確保出来るような広報活動にも留意する。
	達成方法	説明会にあたっては、短時間でインパクトの強い説明会になるように 様々な面から検討し、改善し、取り組んでいく。また、それぞれの説明会に特徴を持たせ、リピーターを増やし、さらには受験生増加につながるよう取り組む。 HP・Facebook・ブログの活用の活性化と新たなWeb広告媒介について研究する。

平成28年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

企画室 平成28年度重点目標		
項目1	目標	生徒の希望進路がかなえられるような各種しかけを企画し、実施する。特に、基礎学力定着・学力向上のために、生徒の学習意欲がわくようなしかけを提案し、実施したい。また、タブレットの導入で新たにできることを企画する。 「目標に向かって最後まで諦めずに努力をする姿勢」をつけさせるために、勝負する意識、競争意識を育成する。
	達成方法	基礎学力を定着させるためのしかけとして、CBTを発展させたMMT(Monday Morning Test)を企画し、進路部との連携を密にして、徹底実施する。さらに、その結果を掲示したり担任指導を徹底することで、生徒の競争意識や学習意欲の向上をうながす。
		様々な分野で頑張っている生徒を掲示したり表彰したりすることで、生徒のモチベーションを高めていく。
		チューターの効率的な利用についても進路部と連携しながら提案していく。
		ブレインエクササイズや妻中検定のタブレットコンテンツを十分に準備する。
項目2	目標	「実践的英語力」をつけさせるような環境をつくる。生徒たちの「すきま時間」をうまく活用して、校内で英語を利用する環境をスタンダードとしていく。
達成方法	ネイティブ教員によるワンミニッツイングリッシュを継続実施する。その中で“Weekly Phrase”も継続し、教員側の取り組み姿勢を統一する。	
	帰国生を活用し、様々な活躍場所を提供する。English Broadcastや外国語発表会、さらに課外で「英語しか使っていない状況」をつくるような企画を実施する。	
項目3	目標	教員の指導力向上のために、各種研修や授業見学機会を企画し、授業方法の共有機会や教員の自己研鑽機会を提案する。そのために、校務分掌・学年その他、すべての部署がスムーズに連携を取れるような環境を整える。特にタブレットの導入で新たな授業スタイルが考えられるので、情報交換の機会を多く設定する。
	達成方法	指導力向上のための「大学入試問題研究会」や「センター試験受験」を、進路部と連携しながら企画運営する。
		教員の授業見学週間の実施方法を改善し、お互いに学びあえる環境をつくる。